

FUKU STAT 2024.02



統計調査課通信 Vol.3

「e-Stat」を活用してデータを収集・活用



みなさんは「e-Stat(イースタット)」をご存じでしょうか？総務省統計局が公開している、日本の政府統計を閲覧できるウェブサイトです。たとえば、都道府県ごとの人口・世帯や、労働・賃金、家計に関することなど、政府機関が実施する17の分野について統計データを検索することができます。今回は、「e-Stat」の利用についてご紹介します。

01 「e-Stat」のご紹介

「e-Stat」から閲覧できるデータには、経済統計や人口動態統計、環境統計など、さまざまな分野のものがあります。

①「統計データを探す」から調べたい事柄や分野を絞ったり、キーワードを入力したりして所管官庁ごとに統計データを検索できます。

②「統計データを活用する」では、より応用的に時系列や都道府県・市町村の地域ごとに統計表やグラフを作成することができます。

ここでは、福井県の「年齢別女性の有業率(M字カーブ)」のグラフを作成することを例にご紹介します。



今回は「M字カーブ」のグラフの構成要素である「年齢別」、「有業率」、そして「都道府県」をキーワードに検索します。調査名が把握できていれば、調査名から検索することも可能です。それでは、早速検索してみましょう。



検索すると、左の画像のように、複数の統計表がヒットしました。統計表のタイトルは、この表が表示内容がわかるようになっており、一番上に表示された「令和4年就業構造基本調査」の「主要統計表(地域) / 2 / 男女、配偶関係、年齢別有業率-全国、都道府県」が利用できそうです。

02 グラフの作成

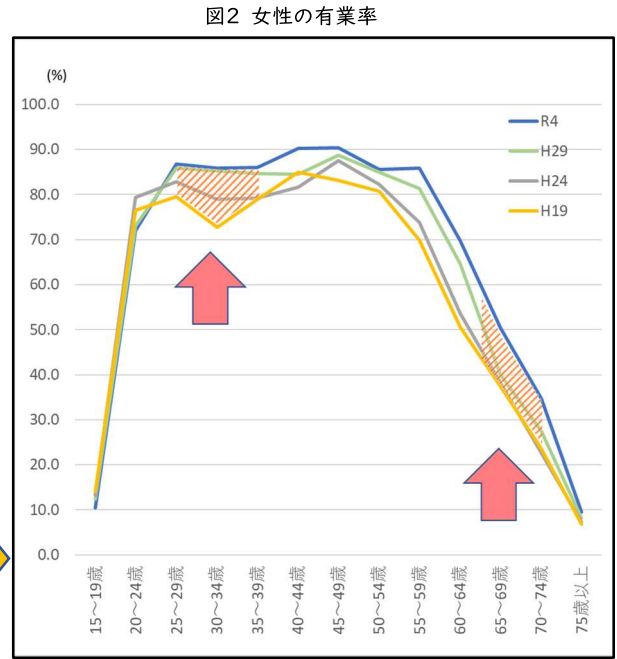
図1の統計表が検索して得られた統計表の一部です。この中から数字を抽出することで、オリジナルのグラフを作成できます。

さらに、この調査の過去のデータを合わせて用いることで、福井県女性の年齢層別有業率の変化をグラフ化して比較することが出来ます。

図2を見てみると、出産・育児期である25～39歳の有業率の低下(M字の谷の部分)が解消され、台形に近づいていることや、60～74歳の有業率も年々高くなっていることがわかります。

図1 ダウンロードした統計表

年齢	総数	年齢別有業率 (%)												
		15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全国	1	53.2	19.8	71.5	85.1	81.0	78.7	89.1	81.2	78.8	74.6			
北海道	2	49.1	22.8	79.6	83.8	78.6	78.2	89.9	80.3	77.3	68.4			
青森県	3	46.3	12.3	79.4	84.0	81.6	83.8	84.8	83.1	79.3	72.5			
福井県	4	51.7	17.4	71.2	85.1	81.0	78.7	89.1	81.2	78.8	74.6			
新潟県	16	51.8	14.9	71.2	85.1	81.0	78.7	89.1	81.2	78.8	74.6			
富山県	17	53.0	14.9	74.7	88.1	84.5	84.9	89.7	87.2	83.0	82.6			
石川県	18	54.3	11.8	71.4	89.8	85.5	84.9	84.8	86.2	86.5	81.5			
福井県	19	59.5	19.4	72.8	89.7	85.3	86.9	90.2	89.4	85.8	85.8			
岐阜県	20	54.2	15.4	89.1	82.4	82.7	89.8	83.0	85.5	83.5	76.9			
長野県	21	54.9	15.9	79.2	84.9	89.6	83.9	82.1	85.9	85.3	85.3			



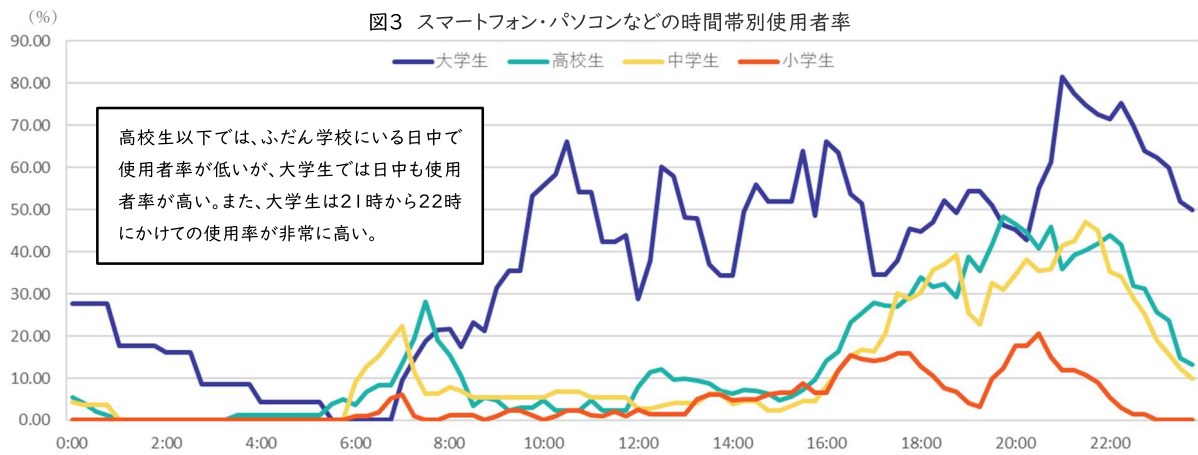
資料：総務省統計局「就業構造基本調査」

03 豊富な掲載データ

図3は福井県の学生の平日におけるスマートフォン・パソコンなどの時間帯別使用者率を表したグラフです。元データである「令和3年社会生活基本調査」の結果については、「e-Stat」上で3,434件もの統計表が公開されています。スマートフォン・パソコンなどの使用時間に関して、今回グラフで示した学生の時間帯別使用者率以外に、年齢別および

男女別使用者率や学生の1日における平均使用時間といったデータも掲載されています。

「e-Stat」には業務上役に立つものから、日々の生活に関するものまで、幅広いデータが掲載されています。特に「社会生活基本調査」や「家計調査」の結果は、より身近で興味深い内容ですので、統計に苦手意識のある方にもおすすめです。



資料：総務省統計局「社会生活基本調査」

今回は総務省統計局の「e-Stat」についてご紹介しました。エビデンスに基づいた行動が重要視される今、掲載されている各種データは非常に貴重な情報源となりますので、ぜひ日々の業務に「e-Stat」をご活用ください。

・調査に関する詳細は、総務省統計局 e-Stat (<https://www.e-stat.go.jp/>) をご覧ください。

